

歴史伝承委員会だより

第5号

2006年8月11日発行



■企画展示特集

- ・成田空港問題の資料収集、
10年間の成果を公開します。・・・2
- ・展示概要
 - A 空港のはじまり
一新空港計画と揺れる地域社会—1960-1966・・・3
 - B 位置決定の衝撃 1966-1967・・・3
 - C 力による対決の時代 1967-1978・・・4
 - 特別コーナー：小川プロダクションと三里塚・・・4
 - D 社会正義と新たな地域像
—シンポジウム・円卓会議— 1979-1995・・・4
 - E 歴史伝承委員会がめざすもの・・・4
- ・作業報告・ビデオ制作／企画展示のための合宿・・・5
- ・コラム・開港記念切手・・・5

■最近の活動から

- ・NHKで紹介されました。・・・6
- ・三ノ宮家実測・・・6
- ・「市民活動資料の保存・整理・公開に
関する全国調査報告書」で紹介されました。・・・7
- ・日航機事故の教訓展示。・・・7
- ・建前の餅拾い。・・・7
- ・鉢巻、ビラなど。・・・7

■コラム

- ・空港問題から生まれた芝山はにわ祭りと
記憶の収集、保存

(芝山古墳・はにわ博物館学芸員) 福間 元・・・8

■近況報告

写真上・1968年2月26日成田市役所前市営球場。反対同盟と
全学連の空港反対決起集会(岩沢和己氏提供)
下・現在の成田国際空港の様子。暫定平行滑走路滑走路
上空より南を望む。(成田国際空港株式会社提供)

今秋開催、
企画展示特集

タイトル

土・くらし・空港 —「成田」40年の軌跡 1966-2006—

成田空港問題の資料収集、 10年間の成果を公開します。

新東京国際空港の計画が1966年に決定されてから、ちょうど40年になります。今日では、年間3000万人を越える旅客数や200万トンもの空港貨物取扱量など、名実ともに日本の主力国際空港として大きな役割を果たしています。

ふりかえってみると、この空港の決定から開港にいたるまでの歴史には、建設整備をすすめようとした国側と、空港予定地やその周辺に暮す地元住民との間に消すことができない厳しい対決の時代があったことが刻まれています。空港建設阻止を叫んで行動した地元住民を中心に、全国からかけつけた多くの支援者や団体などを巻き込んだ運動は、大型の国家プロジェクトの看板を前面にして進めようとした建設側と、激しい対決を繰り返しました。事前に地元住民の意思を確認せず、合意も得ないまま進められたこの「国策」に対しての不満と憤りが爆発し、生活と権利を守る闘いになったともいえます。残念ながらこの闘いの中で、反対同盟側と建設側双方に多くの犠牲者を出す結果を招いてしまいました。

1991年、三里塚・芝山連合空港反対同盟（熱田派）と、地元自治体、空港公団（当時）および政府との間で、「成田空港問題シンポジウム」が開催され、これまでの空港建設過程を共同で検証することが確認され、さらに93年からは「成田空港問題円卓会議」へと引き継がれ、空港と地域との共生のあり方について話し合いが12回も行われました。そうしたなかで国側は強制的手段を今後用いないことを宣言し、新しい共生の時代を築いていくためには、お互いの誠意ある話し合いが最も大事である

ことが確認されました。そうした経緯の中から「成田空港地域共生委員会」が発足し、刻まれた歴史を伝承していくための組織として、97年に「歴史伝承部会」（現「歴史伝承委員会」）が設けられました。

以来10年近く、私たち歴史伝承委員会は成田空港問題に関するさまざまな資料の収集や、多くの関係者からの歴史的証言の記録を息長く継続してきました。それはこの問題を風化させてはいけないという思いと、歴史的にもきちんと位置づける必要性を強く感じてきたからでもあります。反対側・建設側という単純な対立の振り分けではなく、この40年間にこの大地に刻まれたさまざまな苦闘の歴史を、出来るだけ正確につかみ、その本質に迫ることをめざしてきました。

今、40年という節目の年を迎え、地元の方々はもちろん、できるだけ多くの方々に成田で起った歴史的事実を知ってもらおうと、歴史伝承委員会がこれまでに収集整理してきた資料を中心に、中間報告という形にはなりますが、今年11月から12月にかけて特別展示を企画しています。この展示を通して、こうした歴史を発掘し記録し保存し、後世に伝えていくことがいかに大事な仕事であるかを理解してほしいと思っています。できるだけわかりやすい展示をめざしますので、ご期待ください。

2006年8月
財団法人航空科学振興財団
歴史伝承委員会
座長 新井勝紘

土・くらし・空港 —「成田」40年の軌跡 1966-2006—

期間 2006年11月25日(土)～12月3日(日)【11月27日(月)休館】

時間 9:30～19:00(11月25日は12:00～19:00)

会場 成田国際文化会館2階国際会議場

入場無料

特別イベント 小川プロダクション映画上映会

日時 12月2日(土)13:30～「三里塚 第二砦の人々」 16:30～「映画作りとむらへの道」

会場 成田国際文化会館1階小ホール

入場無料

展示概要

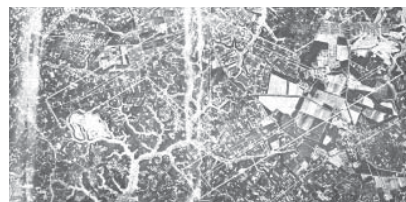
展示は全部で5つのコーナーからなっています。ここでは、各コーナーの概要と主な展示品をご紹介します(なお展示品は予定のため変更される可能性があります)。

A

空港のはじまり—新空港計画と揺れる地域社会— 1960-1966

このコーナーでは、新空港計画が浮上して以来、富里や木更津沖など複数の候補地を経て三里塚に決定されるまでをあつかいます。富里案と成田案の比較、各地の空港建設と与党内の駆け引き、激しくおこなわれた空港反対運動によって撤回された富里案、そして1966年6月23日に突然発表され、わずか12日後に閣議決定された三里塚への位置決定までの過程を追います。

主な展示品：三里塚への空港建設を報じる1966年6月23日の「千葉日報」、新東京国際空港公団が発行した解説冊子など



新東京国際空港公団発行の「新東京国際空港の計画」パンフレット(1968年6月刊行)。本委員会所蔵

B

位置決定の衝撃 1966-1967

空港が決定された三里塚とはどのようなところだったのでしょうか。ここでは、空港以前の風景と位置決定への地域の対応を展示します。この地域には、「古村」と「開拓」とよばれる二つのタイプの村があり、それぞれの地域では地理的条件に合致した農業が営まれていました。また、三里塚は明治以来の「御料牧場」があり、酪農の先進地域でした。

空港の位置決定によって地域は大きく揺れました。反対同盟が結成される一方、「条件派」と呼ばれる人々が有利な条件のために交渉を開始しました。また、「新東京国際空港公団」が発足し、分室が成田につくられました。

主な展示品：「古村」と「開拓」の農機具、農業日記、当時の手帳、公団職員の辞令など



1948年ごろの東峰での開拓の様子。小林勇氏提供

C 力による対決の時代 1967-1978

空港建設が着工され、測量や代執行がおこなわれると、それを推進しようとする政府・公団側と反対する農民や支援学生との間で激しい力による衝突が繰り返されました。

村にはドラム缶がつるされ、測量や代執行(第一次 第二次)を阻止するための砦が各地に作られました。とりわけ、1970年の外郭測量、1971年の代執行をめぐる、ぶつかり合いが激化し、多くの負傷者や逮捕者、死者が出ました。

このコーナーでは、どうしてぶつかり合いになったのかを探るとともに、ぶつかり合いの状況を当時の写真やビラ、チラシ、証言などから構成します。

主な展示品：ドラム缶、強制代執行時の写真、地下壕の青焼き図面、野戦病院ニュース、「アサヒグラフ」、「朝日ソノラマ」、反対同盟ハチマキ、少年行動隊作文集など



1971年2月の第1次代執行で「第二砦」に立てこもる農民。本委員会所蔵元小川プロ資料



1970年ごろの空港建設の状況。成田国際空港株式会社提供

特別コーナー：小川プロダクションと三里塚

当委員会が所蔵する元小川プロ資料によって、三里塚における小川プロダクションの活動を描きます。小川紳介を中心とした映画集団・小川プロダクションは三里塚に住み込み、空港反対闘争に揺れるムラの状況を映画に記録しました。「三里塚の夏」「第二砦の人々」「三里塚・辺田部落」などの映画は、全国各地で上映され、日本国内にとどまらず多くの人々に影響を与えました。

このコーナーでは、小川プロが残したフィルムや写真、ノート類からその活動の軌跡を追います。

主な展示品：映画ポスター、腕章、フィルムとテープ缶、カット表、スクラップブックなど



1970年ごろ、辺田部落で田植えを取材する小川プロのスタッフ。本委員会所蔵元小川プロ資料

D 社会正義と新たな地域像—シンポジウム・円卓会議— 1979-1995

成田空港は、1978年に開港しますが、その後も、反対派農民と政府・公団の対立は続き、両者は長いこう着状態に陥ってしまいます。

その間、成田用水問題や、反対同盟の分裂、成田新法の適用による団結小屋の撤去などの出来事が起こりました。

1991年から始まったシンポジウムと円卓会議はこの状況からの解決を模索するものでした。行司役として隅谷三喜男東大名誉教授らによる調査団が結成され、反対同盟、国、公団、地域社会が、はじめてひとつのテーブルについて話し合いを始め、成田空港問題の解決をめざしました。

主な展示品：都はるみコンサートポスター、シンポ・円卓会議に関する証言ビデオなど



運輸省は、1994年2月、この円卓会議の席で「空港と地域との共生に関する基本的考え方について」を発表した。(「成田空港問題円卓会議記録集」より)

E 歴史伝承委員会がめざすもの

エピローグとして、わたしたち歴史伝承委員会が何を目標しているかを展示します。成田空港の40年の歴史から私たちは何を学べばよいのでしょうか。日本や世界各地での、「負の歴史」への取り組みも参照しながら考えてみたいと思います。

作業報告

ビデオ制作■関係者に聞きました

☞ あなたにとってシンポ・円卓とは何だったのでしょうか。

歴史伝承委員会では、Dコーナー「社会正義と新たな地域像—シンポジウム・円卓会議—」のコーナーで自主制作ビデオの上映を予定しています。

内容は、当時の関係者から、シンポ・円卓とは何だったのかをさまざまな角度から答えていただくというものです。4月に構成を立案し、撮影は6月から開始しました。インタビューにご協力くださったのは、隅谷調査団から河宮信郎さん、政府関係者から高橋朋敬さん、反対派農民からシンポを仕掛けたお一人・石井新二さん、周辺住民の高木吉夫さんなどです。円卓が終了してすでに十数年、この機会に武力での衝突から話し合いへ転換した関係者の思いや努力を見つめなおしてはいかがでしょうか。乞うご期待。



空港の近くで農業を営む高木さん、カメラの前で当時を語ってくれました

企画展示のための合宿■2日間をかけて

企画展示の準備、すすんでいます。



企画展示の開催に向けた準備が急ピッチですすすんでいます。

5月～7月は、展示パネルのラフスケッチを作り、ガラスケースに入れる資料を選び、空港周辺にお住まいで資料をお持ちの方に貸し出しの依頼にうかがう、ビデオ取材にうかがうなどの作業をすすめました。

7月下旬には、展示パネルの解説文を集中的に検討するために、1泊2日の合宿をおこないました。朝から晩まで、解説文をめぐって活発な議論が飛び交いました。終わった後はへとへとになりました。まだまだ準備することはたくさんありますが、一山越えてほっと一息という心持です。

コ・ラ・ム

～開港当時の資料を探しています～

開港記念切手

企画展示では、これまでに歴史伝承委員会が収集してきた資料を展示します。写真の開港記念切手はそのひとつです。成田空港は、何度も開港予定日が延期された後に、1978年3月に開港と決定されました。このとき、大規模な開港反対運動が展開され、空港



管制塔の占拠事件が起こりました。開港は5月に延期となり、この事件は国内外に大きく報道され、この記念切手も発売が延期されました。

○開港時期の資料が不足しています。資料をお持ちの方は、当委員会までご一報ください。



NHKで 紹介されました。

さる7月11日夕方、NHK首都圏ニュースで、歴史伝承委員会の活動が紹介されました。この放映のために、当委員会はこの春から長期にわたって取材を受けることとなりました。

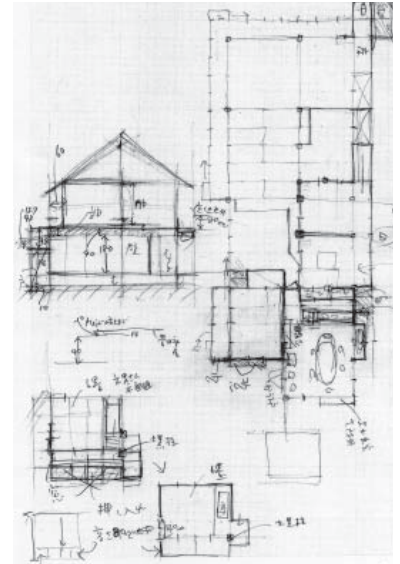
取材では、秋の企画展示に向けて討論を重ねる調査・研究員たちの様子や取材をするシーン、元小川プロから譲渡されたフィルムを点検する様子などが撮影されました。

40年前、運輸省職員から公団発足とともに公団職員になられた工藤隆之さんは、空港建設に最初から関わられた方です。その工藤さんが当時宿泊されていた成田市の扇屋旅館を訪ねられるところを私たちが取材するシーンは、そのままNHKでも放映されました。工藤さんは、この取材をとおして「やっとわたしの残してきた資料の行き先がみえた」と、述べられました。

このテレビ放映は思わぬ反響を呼び、あらたに資料の提供を受けました。(文責:調査・研究員 波多野ゆき枝)

三ノ宮家実測

前号で、騒音地域の移転に伴う三ノ宮廣さん宅の写真撮影について報告しましたが、今回は移転前の実測、聞き取り、ならびに取り壊しに伴う資料収集と記録につ



いて報告します。4月から5月にかけてこれらを実施しました。

4月27日(木)には同家の母屋の実測をおこないました。明治期に建てられた堂々とした伝統的民家である同家の状況を客観的に伝えるため、実測図を作成したものです。実測と平行して、複数時にわたる改築や、同家のつきぬき井戸を台所で使用し、それを庭にめぐらされた水路を伝って水田に流すという水利用システムなどの家屋利用の状況についてご当主の両親三ノ宮武二さん、静枝さんから聞き取りをおこないました。また、空港闘争の中、1971年に自死された文男さんが最後に過ごした部屋からポスターも収集しました。5月7日には再度訪問し、ポスターを受領しました。

家屋の取り壊しは、5月8日から約1週間かけておこなわれました。その過程をビデオとデジタルカメラで記録しました。10日には瓦が落とされている状況を撮影するとともに棟札の収集をおこないました。11日には母屋に重機が入り半分ほど解体がすすみました。このときは、農耕用具など十数点と近代の教育関係の文書など段ボール1箱を収集しました。12日には母屋の大半が壊され、大黒柱が倒されました。そして、17日には、マテ屋が解体され、その様子を記録しました。またマテ屋から出てきた農作業具を収集しました。

(文責:調査・研究員 寺田匡宏)

「市民活動資料の 保存・整理・公開に関する 全国調査報告書」に紹介されました。

戦後日本における市民運動、住民運動、NGO・NPOの活動が生み出した資料の収集・整理状況を調査し、その活用について考える「市民・住民運動資料研究会」（代表・平川千宏元住民図書館運営委員）が、トヨタ財団の助成を受けて2005年度に実施した調査事業、「市民活動資料の保存・整理・公開に関する全国調査」の報告書をこのたび寄贈いただきました。

同報告書は、この種の資料保存機関についての初の全国的な調査であるとのこと、これまで当委員会が「先進事例視察」として見学させていただいた機関も多数紹介されています。当委員会も、空港反対運動に関わる資料を所蔵する機関ということで、機関としての照会を受け、活動の内容について、沿革、所蔵資料、整理、利用状況などについて報告しました。

（文責：調査・研究員 道場親信）

日航機事故の 教訓展示。



1985年の日航機墜落事故の機体を展示しているJALの安全啓発センター（羽田空港）を視察しました。2006年4月19日にオープンしたばかりの施設で、メインの展示物は、墜落事故の原因となった圧力隔壁と脱落した垂直尾翼です。事故原因の究明に使用され、JAL社内で社員教育に用いられていましたが、各方面からの要請にこたえて公開することになったものです。過去の過ちからきちんと教訓を残すための施設に対する社会的重要性が高まっていることがうかがえ、当委員会の今後の方向性を考える上でも重要な施設でした。

（文責：調査・研究員 寺田匡宏）



建前の 餅拾い。

石井英祐氏は芝山町菱田地区にお住まいです。4月29日、移転のための新居の建前が菱田地区矢志谷でおこなわれました。

予定の2時直前、どこからか湧き出るように人々が集まってきました。200人はいたでしょうか。各人、用意してあったコメ袋の口をおりまげて、餅拾い袋の準備を始めます。

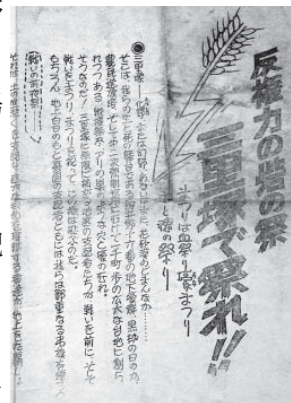
白足袋をはいた棟梁、世帯主、関係者が屋根に上り、最後の釘を打ち込み、お神酒をいただいて、建前は終了。棟の上から大きなお餅を屋根の四方に投げて、餅撒きが始まりました。投げられたものは、餅のほか、コイン、お菓子、タオルなどさまざま。人々は、コメの袋を広げて、一斉に投げられたモノにむらがります。この地域の伝統的な餅撒きは、こうして20分ほどで終了しました。

（文責：調査・研究員 波多野ゆき枝）

鉢巻、ビラなど。

龍崎春雄氏は、現在成田市西三里塚にお住まいです。今年4月、委員会では移転後のお宅に伺い、資料の提供を受けました。

鉢巻・赤地と白地のもの各一枚、三里塚芝山連合空港反対同盟がつくった腕章、これにはマジックで「辺田」と書いてあります。このほか数枚のビラをいただきました。そのなかの一枚は、幻野祭の案内ビラで、1971年8月14日から16日の3日間、場所は駒井野と天神峰で、民謡、フォーク、その他の音楽、映画、演劇などがおこなわれると記されています。（文責：調査・研究員 波多野ゆき枝）



B4版の幻野祭案内のビラの一部分、裏面に内容が細かく紹介されている。

空港問題から生まれた芝山はにわ祭り 記憶の収集、保存

芝山古墳・はにわ博物館 学芸員 福間 元

今年も、11月12日(第2日曜日)に「第24回はにわ祭り」がおこなわれます。

郷土を愛し、芝山町を誇れる町に、町民が一つになれる祭りによる住民の融和と町おこしを願って、昭和57年10月に、町内の7人の有志が始めた「芝山はにわまつり」は、今では、3万人もの観客で賑わう一大イベントとなりました。

しかし、26年前の当時は、成田空港が開港したといっても、賛成反対に町内が二分され、すべてがギクシャクしていました。賛成派、反対派のレッテルを張合い、猜疑心や政治的な思惑が、昭和30年の芝山町合併前の旧千代田地区、旧二川地区という地域意識の残滓とも絡み合って、何をやるにもむづかしい町でした。

芝山町は埴輪と古墳の町で有名ですが、古代から自然の恵みに感謝し、共に助け合って生きてきた芝山町民の先祖、共同体があったからこそ、今の芝山があり、おおらかな表情の埴輪を生み出した事に7人の有志は思い当たられたのでした。殿塚・姫塚を調査された滝口宏先生が詠まれた「花のときは 花もてつかを がざるて、ふ まつりおこさむ ここ芝山に」のように、町民が祭りをとおして一つになることを願われたのです。

その7人もすでに半数以上が物故されました。発足当時を垣間見た私は、この精神を伝えるべく、毎年古代人に扮してくれる芝山中学2年生の子供達に、この話をします。

歴史伝承委員会は、空港問題に関わった方々のインタビューを積極的におこなっているそうです。モノ資料や記録の収集、保存と共に記憶の収集、保存も大切な活動です。急ぐべき仕事だと敬意とともに思っています。

そして、今また、はにわ祭りのメイン会場である芝山公園、仁王尊のある芝山地区が、航空機騒音からの第2次集団移転により、廃村状態となりつつあります。かつては、30数戸の戸数を数え、古刹・観音寺の門前として、芝山町の町名の由来ともなった本貫の地も、数年後には、数戸を残すのみとなります。往事を窺わせる門前や旅館・旅館も住む人もなく、さびれて逝きます。これらの跡地を記憶として残すのではなく、ひとが行き交い、ひとがふれあう歴史的景観、文化空間として再生されることを願っています。

近・況・報・告

4月

- ・芝山町菱田旧三ノ宮家屋実測撮影
- ・TRCCより元小川プロ資料ポスター加工納品
- ・第七回歴史伝承委員会開催
- ・二〇〇六年度ミニDVD化作業開始

5月

- ・坂場修一氏聞き取り取材
- ・第十回企画PT会議開催
- ・第五十六回成田空港地域共生委員会に座長出席

6月

- ・ホームページ更新
- ・企画展示のためのビデオ撮影開始
- ・工藤隆之氏取材
- ・第十一回企画PT会議開催

7月

- ・滝沢尚二氏、高木吉夫氏、真行寺一朗氏、河宮信郎氏取材
- ・第十二回企画PT会議(合宿)
- ・企画展示後援依頼終了

8月

- ・石井新二氏、高橋朋敬氏取材
- ・中村冬夫氏よりフィルム寄贈受ける
- ・たより第五号発行
- ・企画展示図録、ビデオ編集等開始